

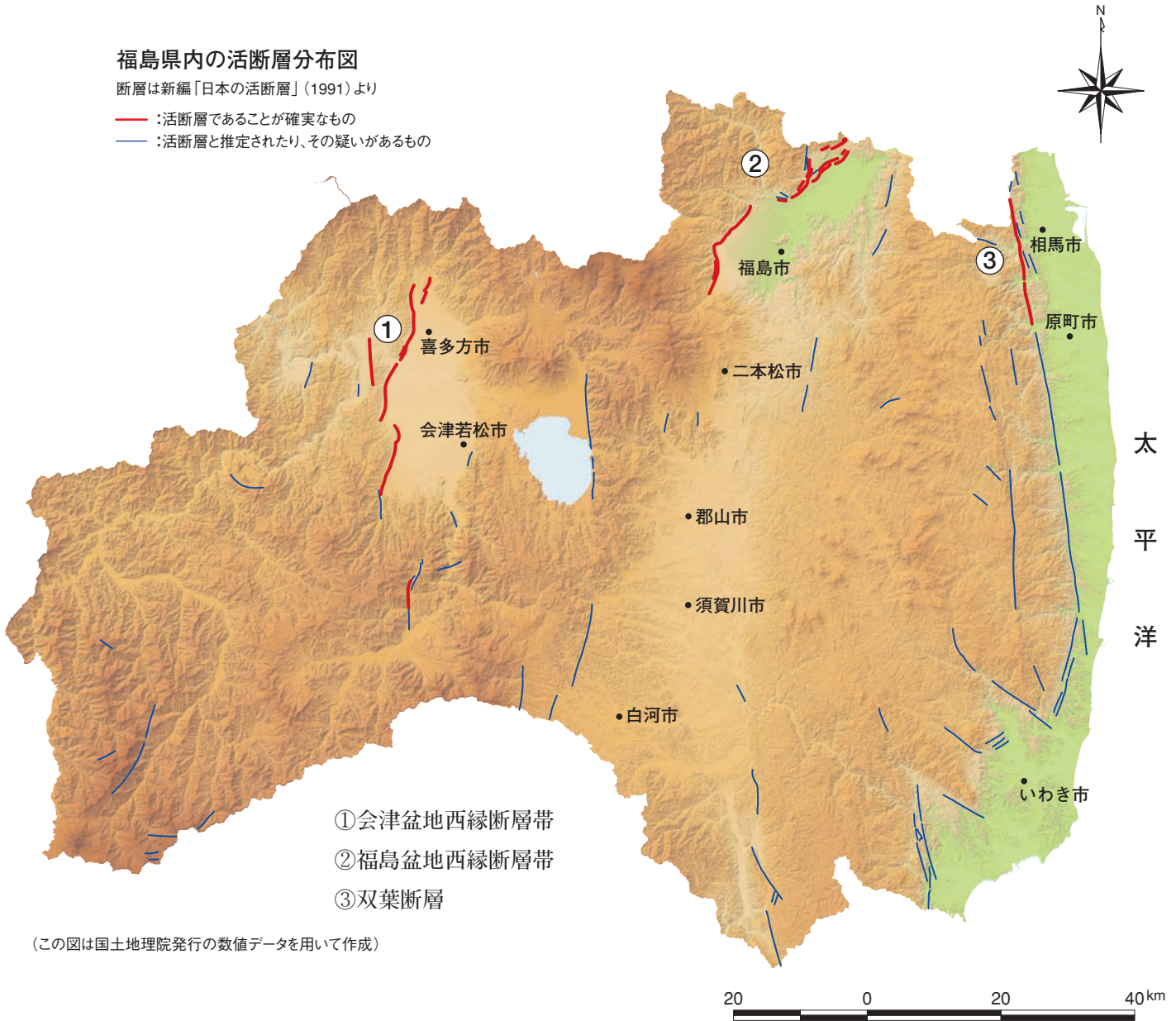
1 福島県内の活断層

福島県は日本の中では活断層が比較的少ない県の一つといえますが、それでも県内には、いくつかの活断層あるいは活断層と推定されるものが分布しています。

福島県内の活断層分布図

断層は新編「日本の活断層」(1991)より

- : 活断層であることが確実なもの
- - - : 活断層と推定されたり、その疑いがあるもの



- ① 会津盆地西縁断層帯
- ② 福島盆地西縁断層帯
- ③ 双葉断層

(この図は国土地理院発行の数値データを用いて作成)

古文書の解析から、西暦1611年の会津地震は会津盆地西縁断層帯の活動によるものとの指摘があります。この断層は会津地方の喜多方市付近から南方に向かって、会津盆地と西側の山地との境界付近に分布しています。その他には歴史時代に地震を発生させたことが明らかになっている活断層はありませんが、比較的新しい時代に活動したことが確実な活断層としては、福島盆地西縁断層帯と双葉断層があります。

福島盆地西縁断層帯は、中通り地方北部の福島盆地の西縁に分布している断層帯で、北方は宮城県の白石市付近まで連続しています。

双葉断層は、宮城県の阿武隈川河口付近から、浜通り地方をほぼ南北に連続し、いわき市の北部に至る長い断層で、このうち相馬市から原町市にかけての区間が活断層であることが確実とされています。

福島県では、会津盆地西縁断層帯については平成10年度～平成13年度に、福島盆地西縁断層帯については平成8年度及び平成9年度に、また、双葉断層については平成8年度～平成10年度に、それぞれ断層の位置、断層の活動間隔や活断層が活動したときに発生する地震の規模などに関する調査を行いました。